

事業所名	調布市子ども発達センター
------	--------------

公表日 令和8年 3月 10日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		○活動のねらいや内容、人数により、他のクラスと協力してスペースを活用しています。 ○今の広さだから職員が見やすくもあるのかも思いますが。 ○前庭、屋上、外散歩などの屋外の活動も取り入れています。	●クールダウンや個別に対応できる場所の必要が生じた場合は、臨機応変な対応が必要です。 ●大人の人数も手厚い分、スペースが狭く感じられることがあるので、支援に応じた適切な人数配置をしています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		○身体面で配慮が必要なお子さんには一人付いています。 ○基準配置以上の職員がいるため、活動によって適切な人数を考え、支援を行っています。 ○期の途中で見直しをして職員の人数を減らしたり工夫したり、子どもたちにとってのベストを考えています。一人一人が子どもの見方や関わり方について改めて考えることができている。 ○子どもの思いに寄り添うことができる点で、配置数が適切だと思っています。	●今後も、クラスリーダーが連携をとり、活動内容や子どもの状況にとって適切な人数配置を考えていきます。 ●人数配置に関しての目的を職員で共通理解のもとに対応します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		○療育室は片付けられ、活動に必要な物だけを出しています。目に入る刺激が少ないようにしています。 ○活動の流れに見通しが持てるよう、スケジュール表で提示しています。	●本人が見通しを持ち、安心して過ごせるような情報提示ができるよう、視覚的なツールの活用については改善してまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		○臨時職員の方々が正規職員以上に心がけて、毎日隅々掃除をしてくれています。 ○基本的に教室やホールはその都度物を片付け、活動に合わせて設定しています。 ○食事前後の消毒、清掃を徹底しています。 ○粘土やクレヨンなどは、使用後に使用前の状態に戻し、次に遊ぶときにはすぐに遊び始められるように環境設定がなされています。 ○毎日消毒作業をしているので、感染拡大防止に繋がっていると思います。	●トイレと廊下の床の冷たさがあるため、心地よく過ごせるための工夫を検討します。 ●遊具や療育に必要なものの収納出来る場所が少ないため、収納の工夫や必要物品の見直しは定期的に行なっています。 ●マットをパーテーションにするなどして工夫しているが、肢体不自由の子が使えるようなトイレがあるとよりよいのではと思います。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		○個別室や本のスペースなど、クラス以外にも移動できる部屋があり、空いていけば必要な時に使用できます。 ○安心して場所を適宜考えています。	●部屋には限りがあるので、状況によっては優先順位をつけて対応する時もあります。 ●子ども自身が気持ちを落ち着かせたい時に過ごせるようなちょっとしたスペースがあるといい
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		○研修を受けた後、実践と振り返りを行っています。 ○振り返りシートを使って話し合いを促進しています。 ○日常的にフィードバックや情報共有の時間を設けています。 ○週に1回のクラス会で活動の見直しを立て、実践をし振り返りを繰り返しています。	●フィードバックの時間に、バス添乗、延長支援の業務もあるため療育終了後のフィードバックに全員参加することはできませんが、気付きや意見が支援に反映できるようなシステムを考えてまいります。また、振り返りの質を向上させたいと思います。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		○毎年の自己評価や父母会主催のアンケート、第三者評価を通じて意見を収集し、改善点を迅速に実施しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		○意見交換の方法として、定期的なミーティングやクラスフィードバック、職員アンケート、日々の朝会などがあります。	●話し合いの機会はあっても、自分の意見が十分に反映されていないと感じる声もありますので、どの職員の声も届くような話し合いの方法を考えていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		○3年ごとに受審し、今年度も受審しました。評価者のアドバイスを活かし、職員間で結果を共有して改善点に取り組んでいます。実施可能な改善を迅速に行っています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		○研修機会が多く、法人内での階層別やテーマ別の研修が盛んに行われており、臨時職員も参加できます。 ○月1回は13時隣園にご協力いただき、多くの職員が参加ができる機会を設けています。	●他の業務も並行して行う場合、研修の参加人数や時間が制約されることがありますが、機会は多くとっているため、個人が目的を持って学べる仕組みを構築していきます。 ●療育の手法以外にも、児童発達支援の仕組みを知る研修などテーマの工夫をしています。 ●研修を通じて、個々の資質向上だけでなく、チーム力を高めることも行っていきたいと思います。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		○令和6年9月に支援プログラムを公表しています。 法人や事業所の理念に基づき、5つの領域の目標と具体的な活動例をわかりやすく作成しています。 ○ホームページで共有されています。	●内容の理解が深まるように、職員研修でとりあげたり、保護者会で説明をしていきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		○保護者との面談や前担当者からの聞き取りにより、ニーズを知り、入園時の児童状況シートの活用や日常の様子、発達検査の結果などから課題を把握し、児童発達支援計画を作成しています。	●今後もアセスメントを丁寧に行い、計画を作成し、支援に活用していきます。

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		○多くの職員が計画作成に関わっています。クラス職員や専門職が、日々の状況を理解し共有したうえで検討が行われています。	●今後も、「こどもの最善の利益」を考え、児童発達支援計画を作成してまいります。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		○計画に沿った支援に努めています。 ○個人ファイルでの計画が明示されています。 ○日々の振り返りを行い、改善点の周知がされています。 ○振り返りシートの活用による目標意識が向上しました。	●作成された計画の共有がどの職員にもされるよう、計画に目を通す機会を多く設けていきます。 ●月案を作成する際に、支援計画を意識し、活動に生かしてまいります。また、活動のねらいを意識して支援します。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		○発達検査や児童状況シートを活用し、日々の様子と合わせて確認しています。	●アセスメントについての知識や技量が職員によって差があるので、ツールの活用方法も検討しながらチームで取り組んでまいります。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		○令和6年度より、支援計画の様式も変更し、より項目を意識した支援内容を検討し記載しています。 ○計画作成の際は、複数の職員で支援内容が具体的であるか検討を行っています。	●支援内容が適切であるかは常に振り返りをしていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		○常勤・非常勤問わず意見を出し合い、週案や月案を作成することができます。 ○クラスで週1回話し合う時間が設定されています。	●立案の際には、ねらいの共有を重視し、見通しを持って支援にあたっております。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		○子どもの発達や支援計画に沿って、必要な活動を提案しています。 ○季節や目的に応じた複数の活動を組み合わせて実施しています。 ○週案や月案を立てて活動内容を多様化しています。 ○クラス内で活動について常に話し合い、新しい活動を取り入れます。 ○目的を明確にし、同じ活動を繰り返すこともあります。 ○リーダー会でクラス間の活動内容を共有し、活動の幅を広げるよう努めています。	●散歩や地域の公園に出かけられるよう、人員体制の調整をしています。 ●活動のねらいを大切にすることを前提として、変化に富める工夫もしてまいります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		○専門的支援実施計画を立てて、個別の活動を行っています。 ○個別や集団活動の様子を専門職と共有しながら支援計画の作成を行っています。また、日頃から、個別と集団活動の様子を共有しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		○日案の共有、朝の打合せを行っています。 ○活動日誌を使って流れを確認できるようにしています。 ○チーム連携を意識し、支援をしています。	●一部の職員からは伝達の不十分さや打合せ時間の不足を指摘されています。朝にクラスで活動のねらいの共有ができる時間を十分にとり連携してまいります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		○療育終了後すぐに集まり、45分間クラスごとのフィードバックができる時間としています。 ○話し合ったことは、日案に残して、翌日以降にも伝えるようにしています。 ○週に一度はクラスで集まり話し合いができるようには配慮しています。 ○内容はクラスの活動日誌や振り返りシートに記載されるため、その時にいない職員も、後から内容を確認することが可能です。	●他の業務との兼ね合いで、打合せに参加できない職員が必ずいるのはやむを得ないので、記録の共有等で代替手段をとったり、シフト調整の工夫もしてまいります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		○サービス提供記録を細かく記載しており、さらに振り返りシートも活用し支援の検証をしています。 ○日案にその日の注意点、更にはその時考えられる改善策など記入しています。 ○サービス提供記録を必ず記載し、コピーも保管してあるため振り返ることが可能です。 ○記録方法を変えてから、話し合いがしやすくなりました。	●記録から検証することも一層充実させていきます。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		○期間を定めてモニタリングを実施しています。		
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		○関係機関との会議には子どもの状況を理解したクラス担当や主任等が参加して情報共有をしています。 ○担当者とは同施設にいたるためにすぐに連携がとれます。	●サービス担当者会議としてではなく、相談担当よりクラス職員が聞き取りがあります。セルフプランの児童もいますが、相談担当が1名ついています。	

25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ建物で市と法人が事業を行っているため、関係機関との連携がしやすいです。</li> <li>○市の相談担当、子ども家庭支援センター、医療機関、学校、学童、様々な機関との連携をしています。</li> </ul>	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報共有を行ったり、見学等に行っていることもあります。</li> <li>○移行先の関係機関、転園前との関係機関と情報共有をします。</li> <li>○今年度より、地域の保育園の園児に遊びに来てもらい、双方の子ども達が一緒に遊ぶ交流活動を定期的に実施しています。今後の活動については、保育園と一緒に検討していきます。</li> </ul>	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○就学支援シートの作成を行っています。学校の担任の先生と電話や対面で情報共有しています。必要があれば、進学先に向いたり、あゆみを見学してもらったりして、引き継ぎを行っています。</li> </ul>	
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業所連絡会に参加し情報交換をしています。</li> </ul>	
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○医師、言語聴覚士、作業療法士、音楽療法士などの各種専門家による研修を実施しています。</li> <li>○興味を持った研修に自発的に参加できるように、研修案内をしています。</li> </ul>	
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども若者支援地域ネットワークの構成機関として連絡会に出席しています。</li> </ul>	
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の保育園に職員と5歳児が参加する交流保育を一人年3回実施しています。</li> <li>○今年度新たな交流保育の形を試行しました。「日常生活の中での交流」に視点を置き、保育園の子どもたちがセンターに来る活動を行い、子ども同士の交流が広がり、良い刺激となっています。特に、年長児だけでなく、他の年齢の子どもたちも参加できる機会が増え、交流が深まっています。今後も保育園と共に活動を検討していく予定です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度試行した交流保育について、来年度も継続し、その効果や今後の手法について検証を続けてまいります。</li> </ul>
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○サービス提供記録を詳細に記載しています。月に一度の親子個別面談や音楽療法、勉強会、行事、面談を通じて情報を共有しています。</li> <li>○連絡帳や電話を利用して必要な情報を交換し、定期面談だけでなく日常的にコミュニケーションを図り、関係を深めています。</li> </ul>	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○月1回の親子個別や親子参加の音楽療法を実施しています。行事の参加時や、面談を通じて情報を共有しています。</li> <li>○毎年、OT(作業療法)、ST(言語療法)、MT(音楽療法)の勉強会も行っています。お子さんとの関わり方や遊びについての情報提供をしています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭の支援が必要なケースが増えているため、研修の機会を増やす必要性を感じています。</li> </ul>
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用契約時や保護者会等で説明しています。</li> </ul>	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○面談で家族の意向を確認し、本人の最善の利益を考慮しています。子どもの目標を共に考えるよう努めています。</li> </ul>	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○面談時に支援内容の説明をして、同意を得ています。内容の加筆や修正が可能であることを伝え、一緒に考えていく意向を示しています。</li> </ul>	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○連絡帳を利用して保護者とやり取りを行っています。</li> <li>○毎月1回の親子個別面談や、医療相談を実施しています。</li> <li>○必要に応じて連絡帳の内容を基に詳細に電話でやり取りしています。</li> </ul>	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	○保護者同士の交流の場は、父母会の活動の支援、保護者会や親子行事の機会を通して作っています。 ○兄弟も参加できる行事を設けています。	●今後はきょうだい同士の交流の場を設けるなど、きょうだい支援をさらに充実させるアイデアを考えてまいります。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	○不安を解消するために電話や面談の機会を設けており、職員間で連携して迅速に対応しています。	●関係機関との調整をさらに早める必要があると感じています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	○園だより、保健だより、給食だより、食育だよりにて保護者に情報をお届けしています。 ○給食献立はホームページに掲載しています。	●ホームページやSNSの活用も行い、保護者だけではなく、外部にも事業所の活動を周知していけるよう検討します。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	○全職員に個人情報の取り扱いについて伝えています。 ○事故発生時には迅速に改善策を講じ、作業手順と環境を見直しました。また、情報管理に関する研修を実施し、個人情報の取り扱いにはダブルチェックを基本とし、ルールを定めて取り組んでいます。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	○言葉は短く伝えたいことを簡潔に話す。視覚的にわかりやすいように必要に応じて写真や絵カード、文字で示すなどして対応しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	○ボランティア、中学生の職場体験、子ども施設職員向けの見学会等で地域の方々の受け入れをしています。 ○行事に、地域の保育園の5歳児を招待し交流しました。 ○法人では「すずかけフェスタ」というお祭りを開催し、地域住民が参加できる機会となっています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	○研修や防災訓練を定期的に実施しており、職員は参加しています。家族への情報提供も行っています。	●送迎中の災害や、事故についても適切に対応できるように研修をしてまいります。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	○毎月、火事・地震・不審者対応など多様な想定で避難訓練を実施しており、発達センターと連携して訓練内容を充実させています。保護者にも協力を求めつつ、非常時に備えた実践的な対応力を高めています。 ○今年度は、保護者に各家庭で食べられる非常食を準備してもらい、それを事業所で預かる取り組みを導入し、万が一の際にも利用者の安全確保と生活支援を迅速に行える体制を整えています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	○入園時に健康調査票に基づき、聞き取りを実施しています。必要に応じて、医師からの情報提供や、指示をいただくようにしています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	○	○医師の指示に基づき対応しています。 ○アレルギー対応の研修、アレルギー対応についてクラスで確認する機会を設けています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	○安全計画を作成し、研修、訓練を実施しています。感染症の研修も実施しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	○保護者会などで伝える機会を設けています。 ○災害時に備えて、伝言ダイヤルサービスを行っている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	○「リスマネデー」という名称で、起こったヒヤリハットや事故に関して、起こりうるリスクについて共有し、明日から自分が行えることなどを皆で話し合う場を設けています。 ○報告書を回覧しています。 ○意識が変わる様になったことも多くとてもよかったです。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	○年度初めや年度途中にも折に触れて話をして、意識できるようにしています。 ○研修の機会を設けています。虐待の定義について、職員間で認識を統一する必要があります。	●支援に悩む職員を孤立させないよう、風通しのよい職場づくりを心掛けていきます。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	○マニュアルに定めています。 ○身体的拘束が必要な場合は必ず家庭と相談し、同意を得ます。定義については、職員間での認識の共有が重要です。最近では身体拘束の機会が減少し、職員の意識や対応が向上していると感じています。		